



- 01 はじめに
- 02 DEP 概要
- 03 個別プロジェクト紹介
- 04 年間スケジュール
- 05 省エネ
- 09 EVE
- 10 外部イベント
- 11 全体会
- 12 夏合宿
- 13 GC
- 15 +E
- 19 FourK
- 21 E-pho
- 22 Create

はじめに

太田 哲男

同志社大学 生命医科学部 医情報学科 教授
省エネルギー推進委員会 委員長

2013年度も引き続きエネルギー問題から夏前に節電の要請がありました。大学では文系の1,2年生が主に今出川で学生生活を送ることとなり、今出川校地での校舎の増加など消費エネルギー増加要因が発生し、エネルギー消費量は増加しています。そのような中、DEPは積極的な活動を提案してくれました。実際には、大学各部局との調整時間不足から実現できなかった内容もありますが、例年通りの掲示板での冷暖房温度調整の啓蒙活動、アンケート調査を行い、特に新校舎での情報を得てくれました。また、EVE祭では、新しい試みとして、再利用可能な容器の積極的な利用活動も行うなど例年にも増して活発な活動を行い、学生の意識を変えるために努力してくれました。最近では、エネルギー問題と共に異常気象による高温が続いたり、時季外れの高低温が記録されたりすることも多く、学生の学習環境を守る視点を含め、幅広い環境問題解決に向けて、DEPの活動に期待しています。

渡辺 太樹

同志社エコプロジェクト第7代学生リーダー
同志社大学 理工学部3年次生

日本や世界における環境問題は多岐に渡っており、なかなかその解決の糸口を見つけることができていません。しかし、私たちはその状態に悲観するのではなく、身近なところから少しでも良い方向に進むために活動を行っていかねばなりません。私たち同志社エコプロジェクトの2013年度の活動目標は「動く」でした。大学内でのアンケートでは、28℃設定に対する意識調査をするだけでなく、学生の満足度を少しでも上げる工夫はないのか考え、実際に行動を起こすことができました。そのほかの個別プロジェクトにおける活動でも、考え悩むことも大事にしながら、実際に「動く」ことを第一にしてたくさんの活動を行ってきました。グローバルで多岐に渡る環境問題ですが、私たちはその被害者であると同時に加害者にもなっています。そんな私たちに何ができるのか。考え、行動できる人材を育成すると同時に、社会に対して警鐘を鳴らせるような団体を目指していきます。

同志社エコプロジェクト(DEP)とは

理念

同志社大学において、学生・大学が共に環境問題を世界的視野で捉え、その問題解決に向けた活動を実践していく。そして、その成果を社会に対して還元していく。

方針

「エネルギー」「廃棄物」「自然環境」の3分野に軸を置き、各分野の環境問題解決に向けて大学の特性を生かした多面的・継続的アプローチを行っていく。

あすみちゃん

あすみちゃんは、DEPのイメージキャラクターです。

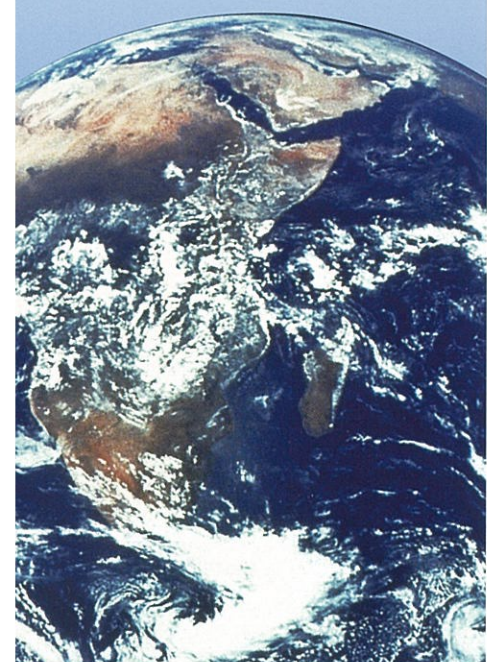
「あすみ」という名前には「明日美」「明日見」「Earth美」など、DEPの活動方針を大きく、また広義に表しています。



DEP 組織図

同志社エコプロジェクト(DEP)は「同志社大学省エネルギー推進委員会」の下に環境活動を行う大学組織として、2007年に設立されました。

「環境保全・実験実習支援センター」によるサポートを受け、学生メンバーは運営と活動に励んでいます。活動体系は、省エネ活動や広報活動などの全体活動と環境教育や映像制作などの特定のアプローチに特化した個別プロジェクトの2つを軸として、多角的な活動を展開する形としています。



DEPの学生メンバーは、全体のプロジェクトの他にいずれかの個別プロジェクトに所属し、それぞれの個性を活かした活動を行っています。

+E

+Eは、環境教育を行うプロジェクトです。+Eの「E」には、「Environment」、「Education」、「Enjoyment」の3つの意味が込められています。「DEPならではの環境教育を創造し、感じ、考え、動き出すきっかけを与える」というvisionのもと、今年度は、同志社クローバー祭、クリスマス会で2つ企画を行いました。子どもたちに環境に対する愛着をもってもらいたいという想いをもったメンバーが、環境に配慮できる人材の育成に取り組んでいます。

GC

GCは、Global Communicationの略で、国際交流を通して環境意識を広めるプロジェクトです。「国際的な視点を持って活動を行い、学生を中心とした様々な人の環境意識・知識が向上する場を創出する」というmissionのもと、留学生を巻き込んだ企画を行っています。今年度は、里山で竹を燻す体験と手作りおたべからカーボンオフセットの商品について学ぶという2つの企画を行いました。目指すは、「環境知識・意識を持つ人がスタンダードとなり、地球人口=環境人口である地球」です。

FourK

FourKは今年度発足されたプロジェクトで、「多角的な分野から、長期的でかつ継続的に実践を行い、地域社会にライフスタイルの変革をもたらす」というvisionと、「100%学生主導で環境事業の考案と実践を行い、地域社会の人々の環境意識の向上を目指す」というmissionを掲げています。活動は学校内でレジ袋の削減やマイボトルの呼びかけなどを行っており、外部へのヒアリングや実地調査等に基づき企画を行っています。

E-pho

E-phoは、写真を用いて環境啓発を行うプロジェクトです。「DEPの活動写真やメッセージ性のある写真を多く撮影し、継続的な環境活動からサイトコンテンツを創作することで、環境について考えてもらい、さらには行動に移してもらえるようなサイトを提供する」というmissionを掲げています。今年度は、同志社クローバー祭での企画、自然環境をテーマに写真展を行いました。同志社大学生・同志社女子大学生が、サイトに掲載した写真やコンテンツを通じて環境意識を高め、環境に配慮した行動をすることを目指します。

Create

Createは、京都市を環境×芸術のロールモデルにするために、日々活動を行っています。作品に触れた人が自然や季節を日常生活で意識するようになり、作品を通じて人々の自然に対する潜在的な愛着を顕在化させ、「楽しいこと・好きなこと」と「環境にやさしいこと」を結びつけることを目指します。今年度はクローバー祭でごみの計量を行い、来年度に新しいごみ箱のデザインを導入するための調査を行いました。

project



個別プロジェクト紹介

DEPの学生メンバーは、全体のプロジェクトの他にいずれかの個別プロジェクトに所属し、それぞれの個性を活かした活動を行っています。

activity schedule

2013年度活動紹介

2013年度のDEPの活動を紹介します。



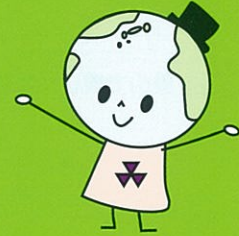
全体活動

- 新入生勧誘活動
- 4月期全体会
- 5月期全体会
- 6月期全体会
- 7月期全体会
- 省エネアンケート実施
- 寒暖MAPの作成
- 8月期全体会(夏合宿)
- 9月期全体会
- 10月期全体会
- クローバー祭
- EVE祭
- 12月期全体会
- 1月期全体会
- 2月期全体会
- 3月期全体会
- 年間報告書2013作成

個別プロジェクト活動

- [+E] リサイクル工作を作ろう!
共催:ガクシン
- [FourK] 生協への聞き込み
- [GC] 里山で燻し竹体験
- [+E] 野菜博士になろう!
- [Create] ごみの計量
- [E-pho] 写真展
- [GC] 手作りおたべ企画
- [FourK] 京田辺市環境会議に参加
- 新入生勧誘活動準備
- 新入生勧誘活動準備
- 新入生勧誘活動準備





energy saving

省エネ

効果的な省エネおよび
温室効果ガス抑制の具体的成果を
出すための、学生の視点から考えた
さらに実践的な活動



省エネ活動とは

DEPでは、全体活動として、学生と大学の仲介役として省エネ活動に取り組んでいます。「同志社大学省エネルギー推進委員会」では、省エネ法の遵守や社会貢献のために大学の省エネルギー化やエコキャンパス化に取り組んでいます。そこで、学生と大学の仲立ちとなる存在として設立されたのがDEPです。そのため、DEPでは2008年度より、エアコンの設定温度を夏期28度、冬期20度に一律

で設定する取り組みを行っています。また、活動を円滑に進めるために、立て看板による周知活動やエアコンの温度設定を一律にすることに對するアンケート集計を行っています。今年度は、昨年度までのアンケート結果をもとに、新たな取り組みとして、教室内の寒暖の差をポスター形式で表す、「寒暖MAP」を作成しました。

活動紹介

教室の温度設定に関するアンケート調査

エアコンの一律設定による現状と学生の反応を把握し、省エネ活動の方針を見直すことを目的とした活動です。京田辺と今出川の両校地にて、授業時間内の温度・湿度を15分ごとに測定する実測調査と、学生を対象としたアンケート調査を実施しました。時間や天気、教室の大きさなど様々な条件を変化させて学生がどのように感じているのかを調査しました。



寒暖MAP

教室内に存在する、暑い場所と寒い場所を可視化した座席表です。アンケート調査をもとに、エアコンの風や窓際などの条件を加味した上で、暑い席や寒い席を選ぶように座席に色を付けた表を作成しました。暑がりの人はエアコンの風が当たる場所に、寒がりの人は周囲より暖かい席を選択し、学習環境の質の向上を目指しました。

周知活動

周知活動は、冷暖房が一律設定であることを学生に知ってもらい、取り組みに対する理解と協力を得ることを目的とする活動です。今年度も例年に続いて活動を周知するポスターを立て看板に掲示しました。また、知真館1号館に設置されている液晶パネルでも太陽光パネルの発電量など省エネに関する情報を掲載しています。

報告書の作成

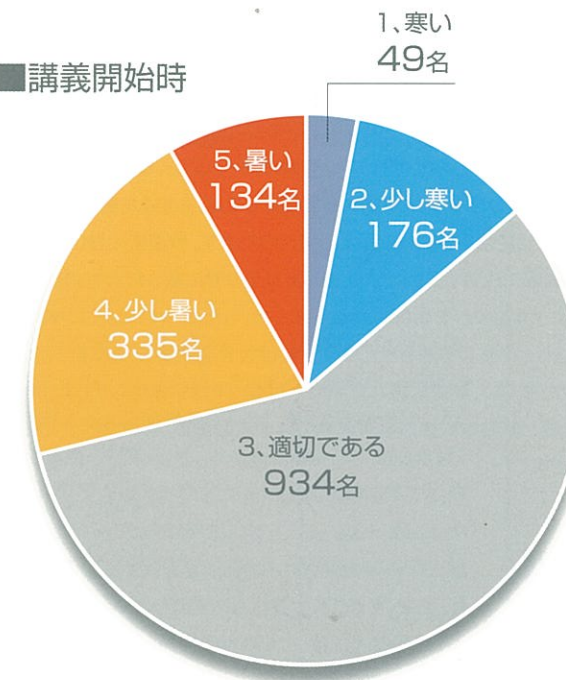
アンケート調査や温度・湿度調査の結果を基に今後の省エネ推進活動報告書を作成し、大学に提出することで、大学の省エネルギー化を推進していくことを目的としています。次年度の省エネルギー推進委員会に向け、今年度の調査結果を分析し、報告書作成を行います。今年度のアンケート結果は次のページから示すものです。

アンケート結果

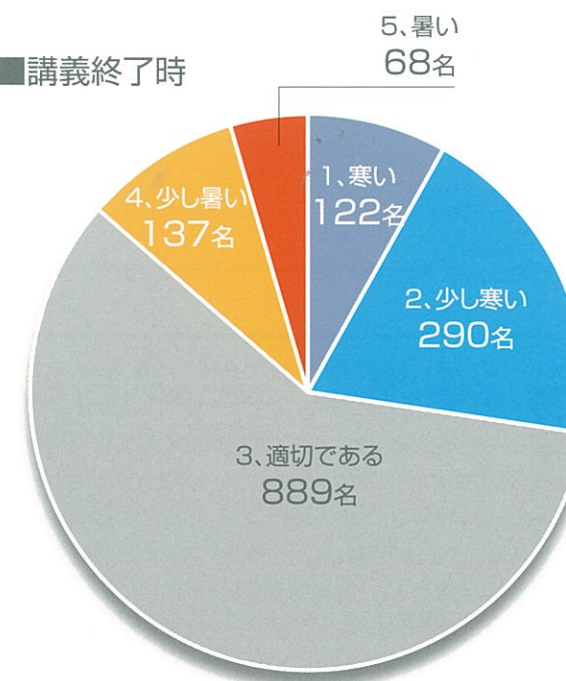
Q. 授業中の体感温度は
いかがですか？

1、寒い 2、少し寒い 3、適切である 4、少し暑い 5、暑い

講義開始時



講義終了時



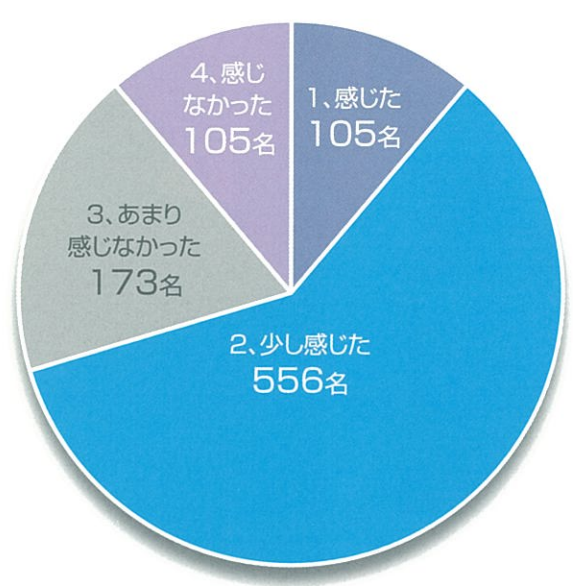
体感温度に関する調査では、過半数の学生が授業中の体感温度は適切であると回答しており、夏の暑さに対し温度設定が適切でないことをよく指摘されますが、全体としてみれば適切な温度であると感じている学生が多いことがわかります。

また、授業開始時から終盤時にかけての変化を見てみると、最初は暑く感じていた学生も、時間がたつにつれ適切な温度に感じる学生が増えており、むしろ寒く感じる学生も中にはたくさんいることがわかります。これは、教室移動や通学の際に長時間暑い空間にいたため、その名残があるということが考えられます。時間がたち、体の動きが落ち着くとむしろ寒く感じる学生が多いことから、授業開始すぐと中盤、終了時にかけて、エアコンの温度設定が一律であることは本当に正しいのか疑問を感じます。

また多くの学生が適切な温度であると感じると同時に、開始時終盤時の両方において、授業環境が適切でないと感じる学生が約半数を占めることがわかります。このことから、比較的良好な教室環境と、悪い教室環境が半々で存在していることがわかります。集計を行う中でも、雨の日などは気温が上がらない日は寒く感じる学生が増えていることがわかり、外の天候や気温に合わせて設定温度を変える必要があると感じます。

Q. 寒暖MAPを参考に席を選んだ方に質問です。寒暖MAPの情報は正しいと感じましたか？

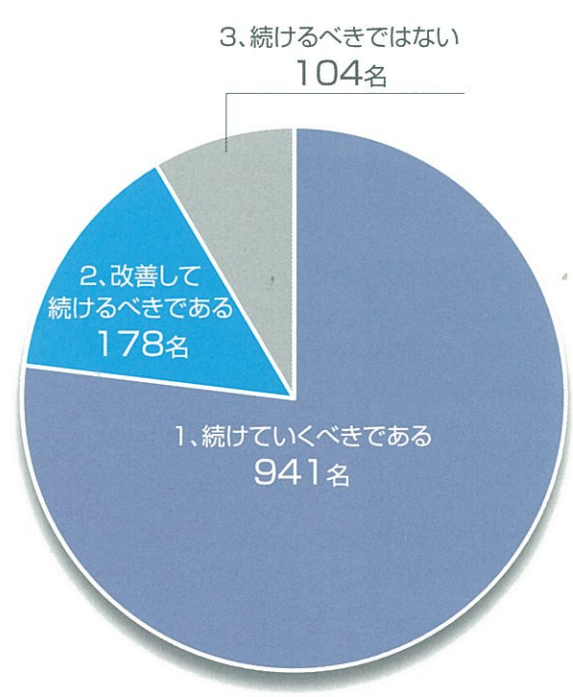
- 1、感じた 2、少し感じた 3、あまり感じなかった 4、感じなかった



寒暖MAPを参考に座席についていた学生を対象にした項目です。「1、感じた」「2、少し感じた」という意見の学生は全体の約7割を占めました。これから分かるように、寒暖MAPで表される温度ある程度妥当であると考えられます。しかし、逆にこの寒暖MAPが正しくないと感じた学生もいました。このような学生が現れる原因としては、もちろん個人差もあるのですが、人口密度が関係していると考えられます。今調査においては、人口密度を指標に含めることはせず、あくまでその席に座った学生の体感温度はどのようなものかを指標に作成しました。したがって、エアコンの風がよくあたることで生じる寒さなどの回避には大きな効果を及ぼすことができましたが、受講人数に対応した席順とはなってはいませんでした。今後は受講人数と教室の広さが学習環境に与える影響について考えていく必要があります。

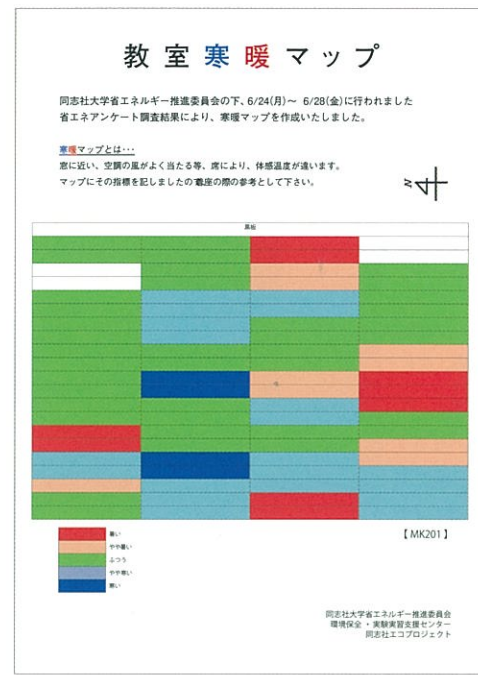
Q. 寒暖MAPについてどう思われますか？

- 1、続けていくべきである 2、改善して続けるべきである 3、続けるべきではない



寒暖MAPの取り組みを続けていくべきであるという意見が大半でした。学生から多くの支持を受けていることがわかります。また改善して続けるべきであるという学生の意見としては、「寒暖MAPを貼っている場所がわかりにくい」「認知度をもっと高めてほしい」という意見が多く挙げられました。このことから、今後必要となる活動としては、寒暖MAPの存在をより多くの学生に周知し、認知度を高めることが考えられます。具体的には、わかりやすい大きさに張り替えることや、装飾を施すこと、たくさんの教室にも取り入れてもらい、学生全体に知ってもらえるような取り組みが必要となると考えられます。

今後の省エネ活動

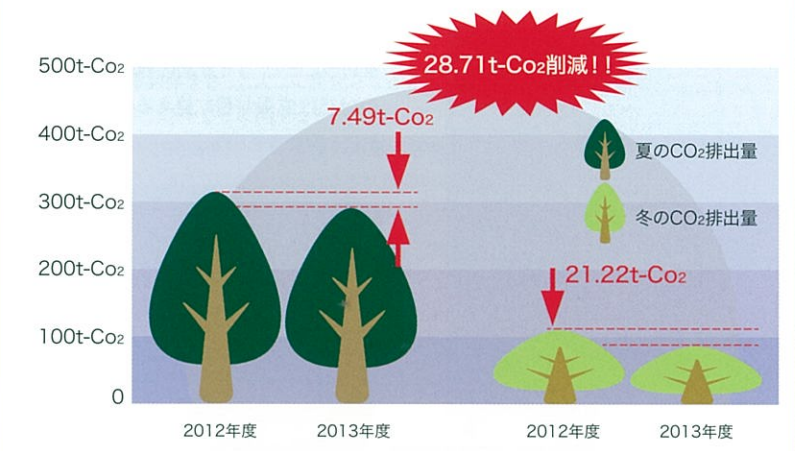


今年度新しい取り組みとして、寒暖MAPの取り組みを行いました。そして、アンケート結果から取組の妥当性と多くの支持を得られたことがわかりました。体感温度に関する問いからわかるように、約3分の1近くの学生が適切とは言えない授業環境の下で生活しています。これらの学生にとっても、さらに過ごしやすい学習環境を目指すためにも、寒暖MAPの取り組みをより精巧にし、継続する必要があります。今後、さらに多くの学生の意見を組みつつ、省エネ環境のもと学生の満足度を上げるべく、適切な環境づくりを行っていきたく考えています。

削減効果 (京田辺キャンパス)

2012年度、京田辺キャンパス内のCO₂排出量は、2011年度比で8.59t増加しました。それに対して2013年度は28.71tものCO₂排出量の削減を達成しました。これは前年度比6.85%もの削減となります。同志社大学が日々省エネに取り組んでいる結果と言えるでしょう。しかし、大きな要因として考えられるのが、文系移転によって京田辺キャンパスの人口が減少したからだと考えられます。人数が減る分、当然電力・ガスの使用量は削減されます。

ですが、今年度のCO₂排出量の大幅な削減は、大きな前進ととらえるべきであり、来年度にこの成果をつなげるためにも、大学と学生が一体となって大学の省エネに取り組む必要があります。



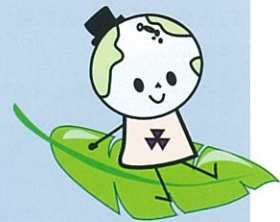
	夏期(6-9月末)		冬期(11月15日-12月末)	
	2012年度(t-CO ₂)	2013年度(t-CO ₂)	2012年度(t-CO ₂)	2013年度(t-CO ₂)
知真館1・2号館	64.68	49.94	31.64	22.4
知真館3号館 図書館・食堂含む	169.68	174.06	58.58	46.79
夢告館系統	41.7	18.69	12.27	8.27
情報メディア	13.29	37.43	7	11.3
恵道館	14.86	16.6	5.29	4.8
合計	304.21	296.72	114.78	93.56
削減量		7.49		21.22

FAQ

Q. 日の気温や湿度ごとにエアコンの温度設定を調整することはできないのですか？

気温や湿度は、時間の推移とともに変わっていきます。その変化に合わせて調整することは大変困難になります。また、建物によっては一括集中でエアコンの温度管理をしているものもあり、その設定をこまめに変更するのは容易ではありません。何かしらの対処を行う必要があります。

教室	教室回収数	校地回収数	全体回収数
京田辺	MK201	192	1159
	TC1-222	111	
	TC3-215	299	
	JM101	30	
	JM206	56	
今出川	RY101	187	1159
	RY204	486	
	Z20	486	



EVE

EVE 紹介

2013年11月に
今出川キャンパスで行なわれた
同志社EVEを紹介いたします。

活動概要

2013年11月26日(火)~28日(木)、今出川キャンパスで行なわれた同志社EVEでは、DEPメンバー全員でリサイクル活動を行いました。皆さんもご存知のように、模擬店の出る大きなイベントでは、本当にたくさんのゴミが出ます。そのため、DEPでは毎年、模擬店から出る割りばしや、揚げ物を作った後に出る廃油の回収・リサイクル活動を行っています。また、今年から新たにリサイクルできる容器「エコトレイ」を模擬店に買ってもらい、回収しリサイクルする、という活動も始まりました。エコトレイは発泡スチロールと同じ材質の容器の表面に、薄いプラスチックのフィルムが貼ってあり、食べ終わった後はフィルムを剥がして燃えるごみに、容器はリサイクルできるというものです。回収されたエコトレイは、また新たなエコトレイになります。また、回収された割りばしは新たな紙資源に、廃油は車を動かすバイオディーゼル燃料にリサイクルされます。

回収のために、メンバーは交代でキャンパス内に設置されたゴミ箱の前に立ち、分別来場客への分別指導を行うことで、ゴミ分別の啓発を行いました。周囲が楽しむ中1日中泥臭い活動を行うのは大変な一方、活動の分だけ成果が目に見えるので、やりがいを感じる事ができました。3日間、メンバーが一丸となって取り組むことができました。

参加者の感想

私は2年生ですが、今年になって同志社エコプロジェクトに入りました。同志社EVEは大学にもDEPにとっても大イベント。その中でゴミ箱の前に立ち、分別を促していく、それがゴミナビでした。私はこの活動でこれだけはしっかりしようと思って活動しました、それは「笑顔で接すること」です。

始めてみてわかったことは、笑顔で接すれば、皆分別を積極的に行ってくれることです。さらに労いの言葉をかけてくれ、分別を笑顔で行ってくれる人がたくさんいたのです。

この活動で、まずこちらから笑顔で接すること、そうすればきっと笑顔で応じてくれること、これは色々な場でのコミュニケーションに繋がるのだと感じました。

このことを改めて認識させてくれたゴミナビは、DEPとしても、一個人としても、私にとっても貴重な体験でした。

EVE祭実行委員会さんからのコメント

第138回同志社EVEでは、昨年に引き続き廃油回収と割りばし回収、そして新しい取り組みとしてエコトレイの導入を行っていただきました。なかでも使用済み油は、団体にとっても廃棄方法に困るものなので、DEP様に指導と回収をしていただき、大変ありがたく感じております。また、EVE実としては、このEVEの場を環境保全活動に活かしていただけることを嬉しく思います。今後もお互いの活動において、より良い形で協力していければと思います。



※BDF= バイオディーゼル燃料

結果

	割り箸の回収量	廃油の回収量	エコトレイの回収量
2012年度	40kg (BOXティッシュ 60箱分に相当)	271ℓ (1760kmのBDF※に 相当)	
2013年度	18.79kg (BOXティッシュ 28箱分に相当)	125.75ℓ (817km分のBDFに 相当)	3600枚(10.8kg) (2400枚分の エコトレイに相当)

総括

同志社EVEでの活動はDEPの中でも実践的な体験ができる貴重な場です。例年の活動に加えて、今年度は新たな取り組み「エコトレイ」の導入やゴミナビゲーションを復活させられたことは大きな前進でした。しかし、まだまだ同志社EVEではたくさんのゴミが廃棄され、3日間ではゴミの山ができます。次年度も引き続きゴミの削減をめざし、既存にある企画の精査と新たな取り組みを検討していきたいと考えています。



external
event

外部
イベント

メンバーが参加した外部イベントを
紹介いたします。

エココン

概要

2013年12月26日(木)~27日(金)の期間、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第11回全国大学生環境活動コンテスト(通称:エココン)が開催されました。

エココンとは、環境に関心のある全国の大学生が1年に1度集まり、発表・交流・学習する場です。2日間にわたって開催されており、全国から集まった環境団体が1年間の成果を発表し、グランプリを目指し競い合います。その一方で、交流の機会となる「エコパ」や様々な環境問題について学ぶことのできる「エコット」といったようなプログラムでは、全国の環境団体の学生と交流することができます。



参加内容

今回のエココンには、DEPからGCとEVEの2団体が参加しました。

今回のエココンのテーマは「持続可能性」であったので、それに沿ったテーマで各団体発表しました。まず、GCは2013年度の活動である里山企画、おたべ企画(詳しくはGCのページ参照)の成果からGCのvisionである「地球人口=環境人口」にいかにつなげていくかという発表を行いました。次にEVEでは2013年度の同志社EVEでのDEPの活動を中心に、これからの同志社EVEの展望を発表しました。

審査員から、GCにおいて目標の「地球人口=環境人口」と現実の企画における実績との乖離について指摘され、具体的にもっと企画に留学生を呼ぶようにすべきだとアドバイスももらいました。EVEにおいては、EVE実行委員との協力を緊密にして、学園祭自体をもっとエコに特化させるようにする活動をめざすべきだとアドバイスももらいました。特に今回初めて導入したエコトレイに関する先例を他団体から聞くことができました。両団体とも決勝には進めなかったのですが、他団体の発表を聞いて、今後の活動に活かせるものをたくさん得られた上、審査員からの確かなアドバイスをいただけたのでエココンでの発表はとても有意義なものとなりました。

エコパやエコットでは他大学の環境団体の方々や環境について真剣に語り合うことができました。実際に環境活動を仕事にしている人の話や政治家の取り組みを学ぶことができました。

感想

他団体の発表を聞いて、発表方法にも工夫が必要だと思いました。企画に日本人参加者も呼んで、随時企画メンバーを募集する。4月にも大きなイベントを行う。みんながもっと好きだ、楽しい!と思えるGCづくりが大切であると感じました。

府大環境デー

開催背景

1972年12月15日に日本とセネガルの共同提案により、国連総会において6月5日



が「世界環境デー」として制定されました。しかし、日本ではこの日を「環境の日」と定めていますが、その認知度はほとんどありません。そこでこの世界環境デーを機会に、「府大環境デー・シンポジウム」を開催し、世界環境デーの主旨と認知度の向上を図るとともに、大学で環境活動を行っている団体が、より活発な意見交換や交流を行うことが目的として開催されました。

概要

私たちDEPIは、同志社大学内で行われている環境活動を紹介し、特に大学と学生団体の連携についてのプレゼンを行いました。ほかに参加した団体では、フェアトレードやグリーンツーリズム、ピオトープを作る活動など、普段なじみのない様々な活動についての発表がありました。そして、パネルディスカッションでは、食糧問題をテーマに話し合いをしました。

私たちがDEPIは、同志社大学内で行われている環境活動を紹介し、特に大学と学生団体の連携についてのプレゼンを行いました。ほかに参加した団体では、フェアトレードや農業など様々な観点からの話があり、いつものDEPの活動とは違った視点から環境問題について考えることができました。

関西ギャザリング

企画背景

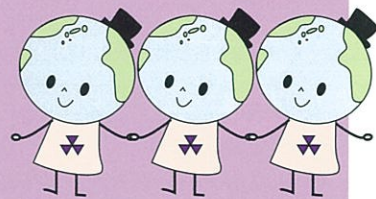
2013年3月1日から3日までの3日間で、関西に住む環境活動を行っている大学生が集まり、合宿形式で新しい活動について考えるワークショップを行いました。2泊3日の合宿を通して、様々な講師の方から自分の活動や理念について学び、理想の社会やその社会を実現するために必要な活動をグループワークで考え、発表をいたしました。

概要

大学生を中心に、「自分のやりたいこと」を実現させる方法について学びました。1日目はイベント参加者同士の交流と、グループで「理想の関西」をテーマに将来図を描きました。2日目は講師の方を中心に「スタート地点(活動地盤と自己分析)とゴール地点(目標、理想)」や「達成したいと思う強い意思」について分科会形式でお話しいただきました。講師の方には、エコライフを実践する小学生教諭から実際に関東で多くの環境活動を実践し成功している大学生までいらっしゃり、お話の内容は多岐に渡っていました。2日目午後からは実際に活動の創出を行いました。参加者の中にある「やりたい」という気持ちを実際に形にするためのワークショップを行い、その中からいくつかをピックアップし、実際に活動の内容や目標をグループとなって作り上げました。3日目はプレゼンと3日間の振り返りを行いました。

今回のイベントに参加した成果としては、スタート地点(活動地盤、自己分析)とゴール地点(活動目標)を明確にする大切さを学ぶことができたことが最も大きな収穫でした。さらに多くの学生とつながることで、他大学の活動について知ることができ、今後の活動に活かすことのできる気付きを得ることができました。





whole meeting

全体会

月に1度DEPメンバー全員が参加する全体会について紹介いたします。

全体会とは

全体会とは、月に1度DEPメンバー全員が参加する集会のことです。ここでは、全体会と次の全体会との間に行われた個別プロジェクトの活動報告をし、全体で行う活動を考えたり、メンバー1人1人のスキルアップを目指したワークショップを行ったりします。全体会の運営は、その月ごとに異なるDEPメンバーが行い、日頃行っている活動がよりよくなることを第一に考えています。

活動報告(2か月分)

6月期全体会



6月期全体会では、全体活動である夏の省エネ活動について話し合いました。当日は20人程度のメンバーが集まり、学生の満足度を下げずに前年度比1%のCO₂排出量の削減を目指すために何ができるかを、5人1組に分かれ話し合いました。具体的な解決策として、「休み時間にうちの配布する案」、「エアコンの28℃設定の周知のためにかき氷の配布を行う案」、「授業教室の窓枠にジェルシートを張り付けることで涼しげな空間を作り出す案」など様々な案が生まれました。もっとも現実的な案としては、エアコンから出る風により教室内で寒暖の差が生まれることから、教室内で暑い席と寒い席を示す「寒暖MAP」を作成する案が考えられ、実際に夏の省エネ活動として実施されました。

■参加者の感想

全体で話し合いを行い、自分たちの活動を考えるというのは、とても難しいことであると同時にすごく楽しいものでした。特に難しかったことは、みんなの意見をまとめることです。たくさん素敵な案が生まれ、その中から1つの合意を得るには多方面からの評価が必要でした。しかし最後に「この案!」というものが生まれた時の達成感は、普段では味わえないものでした。

総括

今年度の全体会は、例年の全体会とは異なり非常に実践的なものを多く取り入れた全体会でした。「みんなでやる活動はみんなで考える」ということを徹底して行うことができました。例年問題になる参加率も徐々に向上の兆しを見せているため、来年度はより質の高い議論やワークショップのできる「人間成長の場」として、大きな役割を担うことができるように頑張っていきたいと思っております。

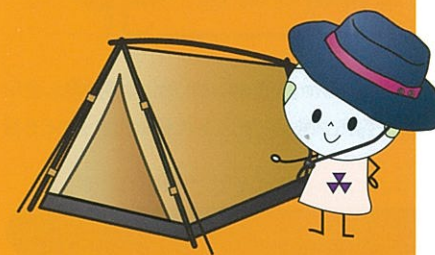
9月期全体会



毎年多くの模擬店が出展される『同志社EVE』において、大量に捨てられる廃棄物に対応するため、DEPではリサイクル活動を行っています。今年の活動に向けて、メンバー全員がその意義を理解し、より主体的に臨むことのできるよう意識を高める場とするために、施設見学とワークショップを行いました。施設見学では、京都市エコランド音羽の社へ行き、なぜごみを減らさなければならないのかについて、埋め立て処理場の有限性から学ぶことができました。またワークショップでは、施設見学で学んだことと、ごみの減量のために1人1人がどんなことを実践できるのかについてポスターにまとめ、同志社EVEで掲示を行いました。

■参加者の感想

同志社EVEでの活動を見据えたこの全体会は、全体の一体感を持たせるためにもってこいの企画でした。「何のためにこの活動をやらなければならないのか」という活動を行う上で最も大事なことを再確認することができました。



summer camp

夏合宿

環境知識の向上、
短期間でのスケジュール・
マネジメント能力の向上、
そしてDEPメンバー間の交流

日時、場所、タイムスケジュール

2013年度DEP夏合宿

日時●2013年9月1日・2日 場所●滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、びわこリトリートセンター

8月31日(日) (合宿1日目)		9月1日(月) (合宿2日目)	
9:30	京田辺キャンパス集合・出発	7:00	ラジオ体操
10:30~10:40	京都駅到着、京都駅集合乗車、 京都駅出発	7:30~8:30	朝食
11:50	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 到着	8:30~9:00	片づけ、退室
12:00~13:00	昼食	9:00~12:00	発表
13:00~16:00	体験学習・講演	12:00~13:00	昼食
16:15~17:15	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 出発・バス移動	13:00~14:00	振り返り
17:15	同志社びわこリトリートセンター 到着	14:00~14:30	8月期全体会(PJ報告・諸連絡等)
17:30~19:00	夕食(BBQ)	14:30~16:00	レクリエーション(予定)
19:00~20:00	入室・自由時間	16:00~17:15	リトリート出発・バス移動
20:00~22:00	リハーサル・入浴	17:15	京都駅到着・解散
22:00~	交流会・就寝	17:20~18:30	京都駅出発・バス移動
		18:30	京田辺キャンパス到着・解散

当日の活動内容

この夏合宿の目的は、環境知識の向上、短期間でのスケジュール・マネジメント能力の向上、そしてDEPメンバー間の交流の3つでした。2013年は国際水協力年であることから、「水(水環境・水知識)」の環境知識の獲得を目指しました。

1日目は滋賀県琵琶湖環境科学研究センターに伺い、研究員の佐藤祐一さんから琵琶湖に関する水環境の講義と体験学習をして頂きました。琵琶湖に関する水環境の講義では、琵琶湖の水環境の推移をデータからみて考察し、佐藤さんが主導で行っているマザーレイク21計画についての話をいただきました。また、体験学習では今の琵琶湖の生態系をみるために実際に琵琶湖に行って水草の種類を観察し、投網を投げてどのような魚がかかるかを調べました。

2日目は8月期全体会で構成されたグループごとにした調べ学習の発表を行いました。発表は国際水協力年のビジョンから、「すべての人が良質な水を利用できるようにするためにどうすればよいか?」というテーマに設定し、3つのグループに分かれてそれぞれ独自の発表を行いました。チーム「奴浮気」は、国際河川が原因で起こる国家間の摩擦や国際河川での生態系の問題について紙芝居で発表しました。チーム「ゲリラ豪雨」は、日本で開発された水浄化技術や発展途上国と先進国での水問題、そして私たちができる節水について劇の形式で発表しました。チーム「スーパーマリオブラザーズ」は、日本含め世界の大陸ごとの水問題や浄化に使用されている技術について講義形式で発表しました。発表の後に夏合宿を通して得られた知識を基に「すべての人が良質な水を利用できるようにするために、DEPとしてどうすればよいか?」を考えました。小学生を対象にクローバー祭で水の大切さについて学んでもらう企画や、DEPの全体活動で同志社大学の学生を対象に水資源の大切さを学んでもらうために琵琶湖での体験学習を行う企画が挙がりました。

総括(当日最後の振り返りを踏まえて)

題材として、「水(水環境・水知識)」を取りあげ、外部講師により琵琶湖に関する水環境の講義と体験学習とDEPメンバーによるグループ発表をしました。参加したメンバーからは新たな知識を得られたという意見が多く、運営メンバーからは得られた知識を発信する機会をDEPとして増やしていく必要があると感じました。





留学生との繋がりを強化!

はじめに

2013年度のGCの活動では自分の大学内でもっとたくさんの留学生と繋がりを強くしようという目標の元で活動をしてきました。さらに留学生に環境について意識を持ってもらうことが狙いです。この目標のもと、この1年間は2つの企画を実施しました。



里山ツアー in Kyoto

2013年7月7日に、京都府木津川市鹿背山にて「里山ツアー in Kyoto」を開催しました。体験や話し合いを通して、里山という概念の重要性を理解し、今後の生活において自然を意識できる人材を輩出することを目的としています。

講演

まず初めに、現地で活動されているNPO法人京都発・竹・流域環境ネットの吉田 博次様から里山の環境問題に関して講演して頂きました。鹿背山の自然環境の仕組みや放置竹林問題の説明、自身の活動の紹介をしていただき、留学生だけでなくGCメンバーにとっても学ぶことの多い内容でした。また竹にまつわる伝統文化ということで、「竹・みつまたプロジェクト」に所属している京都伝統産業青年会部長、中村光孝様に竹から作られる京扇子の成り立ちや魅力講演して頂きました。竹と京文化の接点に気づくことができ、留学生も大変興味を持った様子でした。これらの講演で私たちは、日本語のつたない留学生のため、英語と日本語を合わせたレジュメを配布し、留学生がスムーズに話を聞けるようサポートを行いました。



竹林整備体験

話を聞いた後、実際に竹林整備を体験しました。普段はめったに竹をきることのない留学生たちでしたが、1人1人苦心しながらも硬い竹を切り落としました。切り落とした竹は、燻竹に加工し記念品として持ち帰ってもらいました。



ワールドカフェ

GCメンバーを中心に、「里山の魅力とはどのようなものか?」「里山の理想像とは何か」などをテーマにワールドカフェ形式で意見交換を行いました。自国の自然について熱く語ったり、鹿背山に来た時に感じた魅力を話したりと、多様な価値観が盛り込まれた意見交換をすることが出来ました。

フォトラリー企画

鹿背山に豊富に存在する自然を探索するフォトラリー企画を行いました。数チームに分かれ、指定された植物の写真を撮るによりポイントを競い合いました。ゲーム感覚で楽しみつつ、多くの自然と触れ合うことができました。

総括

この企画を通して環境問題を留学生に伝えるにあたって、ただ単に言葉で伝えるだけでなく実際に環境問題が発生している現場に行ってもらい、そこで肌で実感してもらうことが重要だということを再認識しました。質の高い体験を創り上げ、そこで得られた感情や考えの共有を行うことで、意識の向上につながるのだと思います。



京都の伝統土産を作ろう

2013年12月14日に、カーボン・オフセットという取り組みを知ってもらい、そのような取り組みをしている企業の商品を意識して買ってもらうことを目的とし、「京都の伝統土産を作ろう」という企画を開催しました。

学生に環境のことに興味をもってもらうのには楽しく学んでもらう必要があると考えました。しかし、楽しい企画を過度に重視すると環境問題の本質が伝わりません。私たちはこのバランスを意識しました。

まず留学生に京都駅付近にある「キャンパスプラザ京都」に集合してもらい、導入として簡単なカーボンオフセットについての説明を留学生に対して行いました。

説明の後、カーボンオフセット商品が販売されている「宮井本店」という風呂敷専門店に伺いました。このお店では商品を購入すると他国で輩出した二酸化炭素がオフセットされる仕組みになっています。このように身近なところに環境に配慮した商品があることを知り、留学生は大変感心している様子でした。

さらにもう1店、カーボンオフセット商品を取り扱っている「おたべ本館」に伺いました。この「おたべ」もカーボンオフセット商品の一つです。私たちは、この「おたべ」の手作り体験に挑戦しました。企画終了後のアンケート調査では留学生の満足率が100%に達しました。環境のことを知ってもらおうと同時に学ぶことの楽しさを知ってもらうことができました。

総括

「おたべ」の手作り体験を通して、身近に楽しくカーボンオフセットについて学んでもらうことが出来ました。満足度100%という結果からも、この企画が留学生にとって良い思い出となったことでしょう。目的である「実際にカーボンオフセット商品を買ってもらうこと」を達成するために、この企画にとどまらず、継続したアプローチが必要となってきます。



交流会

GCの企画に参加してもらった留学生やそれ以外の留学生を呼び、GCメンバーと仲良くなってもらいます。そしてGCの企画に来てもらうように促すことが目的です。今年度は週に1度の交流会だけではなく、1日に集中した交流会イベントを京田辺キャンパスの「ラテ」で開催しました。交流を深めるため、さまざまな国の掛け声でおこなう「じゃんけんゲーム」を行いました。留学生とGCメンバーの親交がより深まった良い時間を過ごすことが出来ました。

留学生からのコメント

環境問題は自分たちとはかけ離れた問題だと思っていたけどGCの企画に参加してからはより身近に感じることができるようになりました。この企画でしたことを友達にも伝えたいです。

1年間の総括

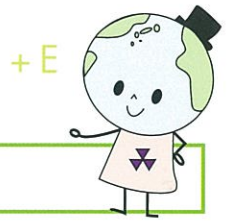
1年間全体を通して、例年よりも更に、留学生に環境問題を身近に感じてもらうことができました。また、いかに留学生が企画に楽しみ、いかに環境問題に関心を持ってもらえるかを検討することが出来た1年ではないでしょうか。この1年間で強化された留学生との繋がりを基盤に、私たちのビジョンである「地球人口=環境人口」に近づけるため、単発の企画だけではなく、継続したアプローチを行っていく必要があります。より計画性を持ち、更なる変革を遂げるように、意欲的に活動を行っていく所存です。



GC
Global
Communication

GCとは、
世界中の環境問題に取り組む大学と
情報交換を行い、
DEPの活動を
世界に発信すると共に、
活動の場を世界に広げる為の
プロジェクトです。





+E独自の企画づくり

はじめに

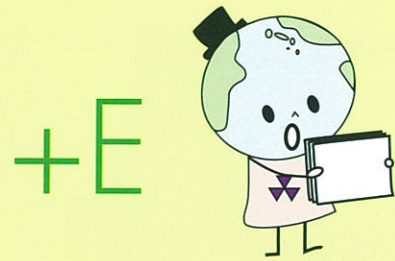
今年度の+Eは、独自の企画を創出するために企画内容を模索するという方針のもと活動を行いました。二つの環境教育企画を実施し、2つの環境教育企画を実施する中で、反省と検討を繰り返しました。そして、私たちの理想とする『自然に愛着を持った人材を育てる』という目標に、子供たちを導くという企画パッケージを創り上げました。



エコ太君と自然体験学習

2013年8月25日(日)に、京田辺市田辺区公民館にて区に住む子供たちを対象とした自然体験学習を行いました。この企画は区の子供居場所づくり委員会の活動の一環として行いました。

自然に愛着を持ってもらうことを目的に室内外でのネイチャーゲームを行いました。普段意識しなければ感じ取れないような自然の音や形、感触を子供たちの繊細な五感で体感してもらう企画です。当日はあいにくの雨で、外でのゲームはできませんでしたが、子供たちは十分楽しんでくれました。まず初めに、「エコ太君が夏休みの宿題としてネイチャーゲームを行う」という導入の紙芝居を行いました。その後、ゲーム形式で約20種類の色・形の違う葉を使った「ネイチャーピンゴゲーム」、人間を含めた生物同士が自然界でどのようなつながりがあるかを知る「食物連鎖ゲーム」、動物にあるさまざまな特徴から、その動物が何かを言い当てる「動物交差点」を行い自然に対する理解を深めました。子供たちはどのゲームにも全力で取り組み、その中で自然にある違いを十分に感じ取ってもらえました。子供たちには当日の意欲的な姿勢を普段の生活の中でも発揮してもらい、自然にあるそれぞれの生物の違いの良さを実感してもらえると、この企画を行った意義があったと思います。



2013年度
活動紹介

+Eとは、「Environment」、「Education」、「Enjoyment」を+（プラス）し、身近にしていこうという思いを込めています。



あなたもこれで食べ物博士?



2013年11月3日(日)、4日(月)に同志社大学京田辺キャンパスでクローバー祭という学園祭が開催されました。+Eは、教室出店の1つとして、同志社大学の京田辺キャンパス知真1号館110教室にて、主に小学生を対象とした企画を行いました。子供たちの食べ残しをなくすことを目的にこの企画は行われました。企画内容は、食べ残しを題材にした紙芝居と野菜の作り方に関するすごろく、そして食べ物の栄養バランスを楽しく学ぶカードゲームの3つでした。

紙芝居では子供たちにも「エコ太君の残した食べ物はどうなってしまうと思いますか?」といった簡単な質問をし、考えてもらうことができました。すごろくでは少し難しい問題もありましたが、子供は親御さんと一緒に真剣に考えている、という微笑ましい光景もありました。カードゲームは子供たちに大人気で「もう1回したい」と言ってくれる子供や2日ともカードゲームをしに来てくれた親子も

いました。企画の最後には、野菜博士メダルを配布し、企画を通して感じたことを宣言として書いてもらいました。

このクローバー祭の企画を通して、私たちは子供たちに自分たちの想いを伝えることの難しさを感じました。しかし、企画に参加する前は「しいたけが嫌いで食べられない。」と言っていた子供が、企画の終わる頃には「嫌いだけど頑張って食べる。」と言ってくれことから、この企画を行った意義を感じることができ、感動を覚えました。この経験を通じて、+Eメンバーも企画を成し遂げる大変さを学んだと同時に、環境教育に対するやりがいを感じるすることができました。



総括

この一年間は昨年度の反省をふまえながら、2つの企画を実施しました。例年と違い、子供に対してどのように接すれば自分たちが想う意識啓発が出来るのかを十分に検討し企画に臨めたと思います。正解にたどり着けるにはまだまだ経験が足りないため、今後もその探求を続けなければならないでしょう。方針を達成するには更なる試行錯誤が必要ですが、そのための良いスタートがきれたと思います。

身近なところで小さな変化を

はじめに

私たちFourKの今年度の活動テーマは「大学内で作ったロールモデルを大学外に発信していく」というものでした。たくさんの失敗はありましたが、大学内での調査やチャレンジは来年の飛躍に向けて充実したものとなりました。



各チームの取り組み

物々交換班

■チームのテーマと目標

物々交換班のテーマは、「温かさ」です。愛着のあるものでも使わないものでも他の人が使うものかもしれない。そういった気持ちから、他の人の物と交換し、長く大事に使われる物が増えることを目指しています。

■取り組み

今年度の取り組みとしては、DEP内で読み終わってしまった本の交換を行いました。ただ単に交換だけでなく、出品者が読んだ時の感想を簡単に紙にまとめ、「ここがおすすめ!」という紹介文を作りました。メンバー内でも読んでいる本の種類は多岐に渡っており、物々交換により新たなジャンルの本を手にし、新しい世界観を持つことができるという、思わぬ効果も生まれました。



エコグッズ班

■チームのテーマと目標

エコグッズ班のテーマは「身近な変化」です。レジ袋やマイボトルなど、普段から身近で使っているものを、いかにエコなものに変えていくことができるのかを考えています。考えたことは大学内で実践し、最終的には地域に発信していくことを目指しています。

■取り組み

今年度の取り組みとしては、マイボトル導入の調査とレジ袋の削減キャンペーンの提案を生協に対して行いました。マイボトル導入の調査では、大学内にあるパン屋さんや食堂などで飲み物を購入する際に、マイボトルを利用することができないのか聞き込みを行いました。さらに、マイボトル普及のためにポイントカード制度の導入などができないかの提案を行いました。またレジ袋の削減キャンペーンでは、生協と協力してレジ袋削減の呼びかけ方を考え、ポスターの作成も行いました。2013年度末は試用期間についての交渉を行っており、2014年度春から実際に始動していきたいと考えています。



京田辺市との取り組み

連携した背景

京田辺市との連携は、同志社大学経済学部教授で環境経済学が専門である郡篤孝先生の依頼により始まりました。郡篤先生が京田辺市で環境基本計画を考案なさったのがきっかけとなり、実際に計画に沿って活動してくれる人材を探していたところ、私たちに白羽の矢が立ったというのが今回の経緯です。

連携した背景

京田辺市との連携が始まったのは2013年の10月末ごろからで、実際にはあまり活動を行っていません。11月末には京田辺市で開かれた環境会議に出席し、学生としての視点から意見を述べさせていただきました。京田辺市は現在、温室効果ガスの削減に向けて、京田辺市民の省エネを促進する企画を考案しています。現在の主な活動としては「省エネ冊子」という、市民の方々に配布する冊子の案を考えており、実現に向けて多くの議論が交わされています。その他にも、省エネに関する企画として、フリーマーケットの開催などを提案し2014年度の企画準備も着々と進んでいます。



IPCC第38回総会に向けてin京都

背景

2013年9月、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)より第5次評価報告書が公表されました。さらに、2014年3月にはIPCC第38回総会が開催されます。これを受けて、気候変動による影響と適応策についての最新の知見をわかりやすく伝えることを目的に、このイベントは開催されました。

概要

私たちFourKはこのイベントで行われたパネルディスカッションに参加し、気候変動問題について議論を行い、大学の取り組みとして、気候変動問題の適応策であるEVEでの活動の紹介を行いました。また会場の入り口付近で、同志社EVEで使用したエコトレイを掲示することで啓発活動も行いました。実物を手に取り、導入に向けて持ち帰る方も大勢いらっしゃり、身近で簡単にできる取り組みについてしっかりと啓発活動ができたと感じています。

総括

1年間の総括としては、多くのことが準備状態で終わってしまったということが印象的です。大学内はおろか、私たちDEPメンバー内で実施することも難しいことが多く、人の意識を変えることの難しさに直面した1年間でした。来年は今年の経験を活かして、身近なところで、小さくとも多くの変化をもたらしていけたらと考えています。

FourK

FourK

FourK(ふぉーく)は、京都市内でテーマごとに分かれて、環境活動を考案し、実践するPJです。

新たな情報発信拠点へ

はじめに

2012年度E-phoはローム記念館プロジェクトの一員として、Webコンテンツの作成を中心に活動を行いました。Web上のやりとりでは感じられなかった、情報の受け手との直接のやり取りを目的に、クローバー祭での写真展を企画として立ち上げ、取り組みました。

写真撮影会

実施期間：6月～8月
 実施回数：3回
 場所：京都府立植物園 貴船神社 けいはんな記念公園

今年の写真展のために、6月から8月にかけて3度にわたり写真撮影会を行いました。メンバー1人1人がそれぞれ、どのようなメッセージを写真に載せて伝えたいのか、ミーティングを重ねて企画しました。

6月期の撮影会のテーマは「自然を撮る」。京都府立植物園へ赴き、季節の花々や青々とした美しい木々の写真を撮影しました。7月期の撮影会では、「神社仏閣の道と街路の環境の違い」をテーマとし、神聖な場所に訪れる人々の環境への気遣いを裏付けるような、貴船神社の美しい道々を写真の題材としました。8月期のテーマは「自然と街の調和」で、大規模の造形物と豊かな自然がみごとに融合した、けいはんな記念公園で撮影を行いました。公園の施設の方には快く対応をしてもらい、大変お世話になりました。

すべての写真撮影会を通して、自然の美しさを意識して撮影し、またその撮影場所ならではのものを撮影できるよう、参加者がそれぞれ意識して取り組みました。

総括

企画をしたメンバーの中には、2013年度から新しく加入した一回生のメンバーもいましたが、すべてのメンバーが主体的に企画にとり組み、そしてこの企画を通して大きく成長することができました。

また同時に、クローバー祭へ向けてのメンバーそれぞれのモチベーションも上がっていきました。



クローバー祭写真展 「自然×写真＝」

2013年11月3(日)・4(月)10時～15時の時間帯に同志社大学京田辺キャンパスにてクローバー祭写真展を開催しました。今回の写真展のテーマは「自然×写真＝」。2012年度とは打って変わって、自然環境の美しさを写真で伝えることを目的として撮影し、写真展という場所で公開することで、E-phoの活動を外部に知ってもらい、また環境への関心を引けるような写真を、見る人に提供したいという想いがありました。

写真展の2日間を通して、1日目は78名、2日目は94名、合計172名の方にご来場いただきました。多くは地元の小学生の方々や保護者の方々でしたが、他の団体で参加されている学生の方や、写真に興味があって見に来て下さった方もいらっしゃいました。

メンバーは写真展開催中に、写真の撮影場所や写真の題材について、ご来場の方に説明させていただく機会があり、このことで、ご来場のお客様に撮影場所・題材へ興味関心を持ってもらえました。

また、「自然」というテーマは大人の方から子供の方までとても考えやすいテーマであり、写真を見てもらった方に多くのメッセージを伝えることができました。

総括

この企画を実践することで、E-phoメンバーの撮影した写真への反響を直接見ることができました。また、知識不足な状態からスタートしましたが、企画を進める中で、そして実践する中でも、最後までたくさんの学びを得ることができ、本プロジェクトにとって非常に有意義な活動となりました。



1年間の活動総括

今年一年は、メンバー誰もが経験したことのない「写真展」という情報発信拠点への挑戦と、学び、成長の一年でした。

写真撮影会では、メンバーの一人一人が撮影会の企画を主導することに挑戦し、写真展の実施に向けて、準備期間の中でその運営のやり方を試行錯誤して考え、また写真展開催からその終わりまで、さまざまな新しい発見に出会いました。

メンバー全員が写真展への知識が0からのスタートでした。その分運営のやり方も手探りであったのですが、その一方でそれぞれに新しい知識と出会い、成長できたと思います。

今後は、「自然」というざっくりとしたテーマだけにとどまらず、もっと環境啓発につながるような、メッセージ性の強い写真の撮影を心掛けていきたいです。また、昨年度から続いていたWeb上でのコンテンツの展開、公開も絶やすことなく、続けていきたいと思っています。

来年度も、DEPに所属しているE-phoとしての活動を心掛け、さらなる挑戦、成長を目指します。



はじまり

はじめに

Createは2013年度を「調査の年」と位置付け、同志社大学における環境活動の現状調査を行いました。具体的には、同志社大学京田辺キャンパスで毎年11月に行われるクローバー祭において回収されるゴミの量と分別割合について調べました。



クローバー祭

日時・場所

2013年11月3日(日)、4日(月)に同志社大学京田辺キャンパスにてクローバー祭が開催されました。Createは2013年度を調査年度と位置づけ、クローバー祭で出されたゴミの量と、分別度の調査を行いました。

当日の様子、結果

両日ともに雨が降る中、クローバー祭実行委員会の方にご協力いただき、お祭りで出たゴミをごみ収集所で計量しました。Createメンバーだけでは人手が足りなかったため、他のDEPメンバーにも手伝ってもらいながらの企画となりました。

まず、あらかじめ増設したゴミ箱にそれぞれ番号を振っておき、場所別のゴミの量を調べました。<図1>また、クローバー祭で増設したゴミ箱から回収されたゴミを調べて分別できていないものを取り除き、分別前と分別後でゴミの量の変化を調査しました。調査の結果は以下の通りです。

<1日目>

回収時間帯	ゴミ箱番号	重量 kg (分別前)	重量 kg (分別後)	差kg
昼	2	2.83	2.83	0
	5	1.03	1.03	0
	5	1.11	1.11	0
	5	1.93	1.93	0
	7	2.1	2.1	0
	4	1.72	1.72	0
	9	1.51	1.51	0
	2	1.79	1.79	0
夜	4	0.81	0.81	0
	不明	2.83	2.83	0
	9	1.4	1.4	0
	6	2.89	2.89	0
	7	2.29	2.29	0
	7	1.85	1.85	0

<2日目>

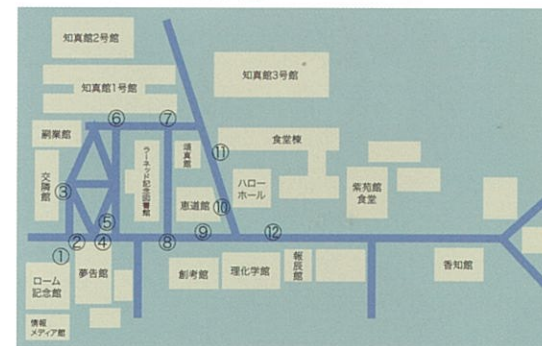
回収時間帯	ゴミ箱番号	重量 kg (分別前)	重量 kg (分別後)	差kg	
昼	8	4.34	4.34	0	
	7	2.52	2.52	0	
	6	2.85	2.85	0	
	9	2.25	2.25	0	
	9	3.42	3.42	0	
	5	2.71	2.71	0	
	4	5.5	5.5	0	
	7	1.41	1.41	0	
	4	2.29	2.2	0.09	
	夜	6	2.37	2.37	0
		8	2.37	2.37	0
		4	3.12	3.12	0
9		1.92	1.92	0	
7		1.53	1.53	0	
5		2.13	2.13	0	
2		3.38	3.38	0	
5		2.51	2.41	0.1	
4		2.25	2.18	0.07	
1		2	2	0	
坂		4.85	4.81	0.04	
8		0.69	0.69	0	
1	4.3	4.3	0		
7	0.06	0.06	0		
7	2.62	2.62	0		
9	1.14	1.14	0		
9	3.37	3.08	0.29		
5	0.83	0.83	0		
5	2.93	2.62	0.31		
7	0.47	0.47	0		
7	1.83	1.61	0.22		
10	0.65	0.61	0.04		
2	9.65	9.65	0		
6	3.54	3.54	0		
4	1.09	1.09	0		
9	2.29	2.29	0		
2	0.28	0.28	0		

<表1>ゴミの計量結果(分別前、分別後とその差量)
(ゴミ箱番号は、<図1>ごみ箱設置箇所と番号 参照)
※回収したごみ箱の回収順に記しています。



ゴミ箱番号	一日目昼	一日目夜	二日目昼	二日目夜	合計
1	0	0	0	6.3	6.3
2	4.62	0	0	13.31	17.93
3	0	0	0	0	0
4	2.53	0	7.79	6.46	16.78
5	4.07	0	2.71	8.4	15.18
6	0	2.89	2.85	5.91	11.65
7	2.1	4.14	3.93	6.51	16.68
8	0	2.11	4.34	3.06	9.51
9	1.51	1.4	5.67	8.72	17.3
10	0	0	0	0.65	0.65
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0
不明	0	2.83	0	4.85	7.68
合計	14.83	13.37	27.29	64.17	119.66

<表2> ゴミ箱ごとの計量結果(kg)



<図1>ごみ箱設置箇所と番号

2日間のゴミの総量は119.66kgでした。計量の合間にキャンパス内を見回ったところ、ポイ捨てもあまりありませんでした。

また、場所別にゴミの量を調査したところ、②や④-⑨のように模擬店付近に設置されているゴミ箱が特によく利用されていました。反対に、①や③など正門のあたりに置かれているゴミ箱はあまり使われていませんでした。

さらに、分別前と分別後のゴミの量の変化から分別度を割り出したところ、98.73%という高い割合でゴミが分別されていたことが分かりました。

総括

天候不順などの影響で来場者が少なかったこともあり、ゴミ自体が例年より大幅に減少していました。実際に調査する前の予想に反して、ゴミがきちんと分別されていたことにはとても驚きました。来場者のゴミに関するマナーが確立されていることが分かったことは、今回の調査における大きな収穫でした。プロジェクト発



足後初めての企画であり大きなものはできませんでしたが、この結果を来年度以降の活動に活かしていきたいです。

1年間の活動総括

発足当初、クローバー祭の企画は実際にお祭りに使ってもらえるゴミ箱の制作と設置までを行う予定でした。しかし、担当の方との交渉に時間がかかったこともあり、今年度はゴミの量と分別度の調査に留まってしまいました。クローバー祭以外に具体的な活動ができなかったことも課題のひとつです。こうした課題を克服するために、毎週のミーティングにもっと力を入れる必要があると感じました。また、スケジュール管理をきちんと行うことの重要性を痛感しました。今後は企画に関わる方々との連絡を密にしつつ、綿密なスケジュールを立てて企画を考え、実施していこうと考えています。来年度からは本格的に作品の制作などを通じて啓発活動を行っていきます。

メンバー募集

同志社エコプロジェクトは、環境問題に関心のある、多くの学生を募集しています。(学部の新入生には限りません。在校生、大学院生(修士・博士)を含めて、皆様の参加を待っています。)

同志社エコプロジェクトへの参加は小さなことかもしれませんが、自分たちができることから、大学と共に自然環境を保全する活動を始めてみませんか。

同志社エコプロジェクト事務局
連絡先 同志社大学 京田辺校地 医心館1階 環境保全実験実習支援センター事務局
TEL:0774-65-7772 E-mail:jt-hozen@mail.doshisha.ac.jp

